

**「マダム バタフライ」原作台本歌詞の日本誤認改訂版、
2013年、第59回プッチーニフェスティバル
再公演関係の皆様**

涼しい秋になりました。お元気ですか。

イタリア側の決定が大幅に遅れ、皆様にはご迷惑をおかけしたと思います。

やっとメールが入り、プッチーニフェスティバルでの来夏のバタフライの上演は、我々以外にも全くなくなりました。誠に残念です。

その理由の一つはイタリア／ヨーロッパの長引く経済危機ですが、もう一つは、プッチーニの孫娘で著作権継承者のシモネッタ・プッチーニさんの反対が大きく存在します。

ご存知のように、「マダム バタフライ」原作台本中には、蝶々さんの出身地・大村をオマーラとすると同じ間違いの台詞が2箇所ありますが、それらダブルものを2と数えると、全部で11箇所あり、そのうち、オマーラを大村に訂正したものと、パリ公演で変えてしまった第2幕の蝶々さんの芸者稼業を、かど付けをするごぜのように誤認したアリアを加え3箇所しか、改定はシモネッタさんに認められませんでした。第2幕のアリアはプッチーニと2人の台本作家自身が既に先行ブレーシャ版に書いた、芸者誤認のないものに戻しただけのものです。

僕はやむなく、残りの8箇所の誤認はそのままにして、彼女が許した3（2）箇所のみを正して上演しました。次回・来年は、我々日本民族の根本的なことへの誤りをただせるようお願いするつもりでした。

然しなぜか、シモネッタおばあちゃんは一変して態度を変え、プッチーニフェスティバル財団理事長とモレッティ総監督の説得にも応じず、改定は（既に許した3箇所も含め）一切まかりならない、と仰るそうです。

昨夏の公演時に、客席にご挨拶に行った僕ににこやかに挨拶され、最終公演の舞台上に出られ、僕へのプッチーニ賞授賞に立ち会われた姿とは全く変わったその態度に愕然とします。

昨夏、彼女の許可を得るべくトッレ デル ラーゴのプッチーニ博物館に財団幹部や出演者ともども彼女を訪ねたとき、「ダンテの神曲」に誰も手を入れないように、私の祖父の作品も無修正で残されるべきである、という言い分で、僕は納得しました。一度許すと後は手をつけられなくなる恐れがあります。

だが現存する他民族のこと、特に遥か東洋の果てで過去の伝統の上に厳然と存在する日本という民族の、全く異なる習慣や宗教は、その姿を世界に正しく伝えるべきで、過去の人類の遺産とは違う特別な配慮が払われるべきだと僕は思います！

それこそ彼女の祖父プッチーニが、日本から楽譜を取り寄せ、折からパリ万博で公演中

の川上貞奴・音二郎に、そして駐伊日本大使夫人・大山久子などに、全く知らない国、日本のことを聞きまくった努力と同じことです。

残念ですが現在の時点では、次回の日本誤認改訂版でのこのオペラの公演がいつ何処で、この同じメンバーであるどうかは全くわかりません。

本当にご苦労様でした！あのイタリア中が誉めた公演の大成功は皆様のお手柄です。小生の非力のせいで皆様におかけしたご迷惑については、深くお詫び申し上げます！

なお今年4月、東京のイタリア文化会館での公開ゲネプロ出演者の方々のご了解を得、来2013年夏のプッチーニフェスティバル上演の為の公開ゲネプロであるから、その出演料はお払いしませんでした。万一、その公演が無くなった場合にお払いする約束の、二宮咲子（蝶々さん）、末広貴美子（すずき）、高橋淳（ごろー）、藤間蘭黄（所作指導、振付）の皆様には、お約束した金額をお支払いします。

皆様と又どこかでご一緒にお仕事出来ること、日本誤認のない「マダム バタフライ」をご高評頂く機会の早いことを心から念じながら、

2012年10月15日、東京にて

NPO みんなのオペラ芸術総監督
「マダム バタフライ」日本誤認改訂版作成・演出

岡村喬生